

河川砂防技術研究開発公募(地域課題分野)平成26年度採択テーマ 中間評価結果

テーマ名および概要		提案者名	評価	中間評価コメント
テーマ	排砂バイパストンネルおよび下流河道における土砂動態把握手法の高度化	京都大学 角 哲也	b	実験による土砂動態のモニタリング手法の検討は着実に進んでいるが、観測手法と流砂の物理機構(メカニズム)との関連性に留意しながら、現行計画のとおり進捗することが妥当と評価する。
概要	ハイドロフォンやICタグ技術を用いて排砂バイパストンネルおよび下流河道における土砂輸送機構の解明を行う。			
テーマ	江の川三川合流部における洪水流・河床変動予測モデルと背水域を含む本・支川河道が洪水流の伝播・変形に与える効果の定量化に関する研究	中央大学 竹村 吉晴	b	モデル改良による三川合流の再現性向上等、研究は着実に進捗しているが、現場での課題解決や実管理への反映に留意しながら、現行計画のとおり進捗することが妥当と評価する。
概要	三川合流部における河床変動特性と本・支川河道が洪水流の伝播・変形機構に与える効果について複数の降雨パターンから検討し、定量的に評価する。			
テーマ	本明川承水路区間の土砂堆積の把握に関する調査研究	長崎大学 西田 渉	c	現地観測及び数値モデルの構築は進んでいるものの、現象の理解が不十分である。改めて現場の問題意識や研究の目標を明確にし、研究計画を修正する必要がある。
概要	本明川下流の承水路区間を対象に河床形状の変化に洪水流や風成流が与える影響を現地観測と数値解析により明らかにする。			
テーマ	感潮区間に適した河川流量連続モニタリングシステムの開発	東京理科大学 二瓶 泰雄	b	提案された手法を用いることにより流量が正確に計測されることが示されているが、様々な河道に対する汎用化に留意しながら、現行計画のとおり進捗することが妥当と評価する。
概要	H-ADCP流速計測技術と力学的内外挿法(DIEX法)を組み合わせ、感潮区間に適した流量連続モニタリングシステムの開発する。			
テーマ	殿ダム貯水池における異高同時取水による選択取水設備の効率的運用	鳥取大学 矢島 啓	a	観測による取水特性の把握等、研究は着実に進捗していることから、現行計画のとおり推進することが妥当と評価する。
概要	水温成層形成下におけるサイフォン式取水設備の取水特性を明らかにし、3次元水温予測モデルを用いたその運用を検討する。			

評価の凡例

- a:非常に優れた研究であった。
- b:優れた研究であった。
- c:条件付きで評価できる(研究費の減額等)。
- d:優れた研究ではなかった(研究の打ち切り)。